

第73回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた  
一般社団法人テレコムサービス協会MVNO委員会への追加質問及び回答

問 着信接続料収入への依存が大きい事業者にとって、これがゼロになってしまうビル&キープ方式は、経営に甚大な影響があることが指摘されています。そのような事業者にまでビル&キープ方式を強要することは無理があると思われ、論点整理案の通り選択制とすることが良いと考えます。その上で、ビル&キープ方式を望まない中小規模の事業者等に対してビル&キープ方式と従来の精算方式のどちらも選択できることを保証することも制度上必要だと思われま。

その場合、約款化の必要性の有無、約款化した場合の呼種、接続形態等の条件付けについて、どのような措置が必要だとお考えですか。

(関口構成員)

(一般社団法人テレコムサービス協会MVNO委員会回答)

- ビル&キープ方式はIMS接続を導入するMVNOにとっては、相互接続先の他事業者との協議や事業者間精算の事務的コストの軽減が期待されます。指定設備事業者は強い交渉力を有していることから、非指定設備事業者との間で接続方式に係る協議が不調とならないよう、制度としてMVNOの選択可能性が担保されることが重要であり、約款化は必要と考えます。
  
- なお、ビル&キープ方式を制度として運用する場合、自網コストの効率化インセンティブが強く働くとの意見があったところ、設備の効率的運用が接続料の継続的な低下に現に繋がっているかを中長期的に注視すべきと考えます。

以上